

2 水道水

県では、厚生労働省が示しているモニタリング方針に基づいて、県内各水道事業者（県企業局及び各市町村）が水道水の放射性物質検査を実施しているほか、県衛生食品課において、衛生環境研究所内の水道水の検査を実施しています。

これまでの検査では、事故発生直後に一時的に放射性ヨウ素及び放射性セシウムが検出されましたが、平成23年6月3日以降、県内全ての市町村において水道水から放射性物質は検出されていません。

(1) 水道水の放射性物質モニタリング

県衛生食品課では、事故後、水道水の緊急検査という位置づけで、県営施設で放射性物質を検査できる唯一の施設であった衛生環境研究所において、平成23年3月18日から同所内の水道水及び県企業局の3浄水場水道水の放射性物質検査を開始し、衛生環境研究所蛇口水については、現在も週1回の頻度で検査を実施していま

す。

その結果、事故直後に最大62ベクレル毎キログラムの放射性ヨウ素及び最大1.20ベクレル毎キログラムの放射性セシウムが検出されましたが平成23年6月3日以降は、全て不検出となっています。

〈県衛生食品課による放射性物質モニタリング実施状況〉

検査期間	検査対象	検査頻度	検出状況
H23. 3. 18～ H23. 9. 9まで	衛生環境研究所蛇口水×1	1回/日	・放射性セシウム 1.20Bq/kg (最大値、H23. 3. 20)
	県企業局浄水場水道水×3	3回/週 程度	・放射性ヨウ素 62Bq/kg (最大値、H23. 3. 24)
H23. 9. 10～ H24. 3. 31まで	衛生環境研究所蛇口水×1	1回/日	全て検出下限値以下 (未検出)
H24. 4. 1～ 現在まで	衛生環境研究所蛇口水×1	1回/週	全て検出下限値以下 (未検出)

(2) 県営4浄水場の浄水放射性物質モニタリング

県企業局は、平成23年9月、独自にゲルマニウム半導体検出器（注10）を整備し、4浄水場（県央第一水道、県央第二水道、新田山田水道、東部地域水道）の水道水について放射性物質の検査を実施しています。

その結果、検査開始から現在に至るまで、放射性物質は検出されていません。

（注10）

ゲルマニウム半導体検出器＝ゲルマニウムという元素の半導体を用いた放射性物質検出器。放射性物質の精密な検査を行います。

(3) 各市町村による水道水放射性物質モニタリング

県内各市町村では、厚生労働省の示したモニタリング方針に基づいて、適切な頻度を設定して水道水の放射性物質検査を実施しています。

これまでの検査の結果、水道水からは、放射性物質は検出されていません。

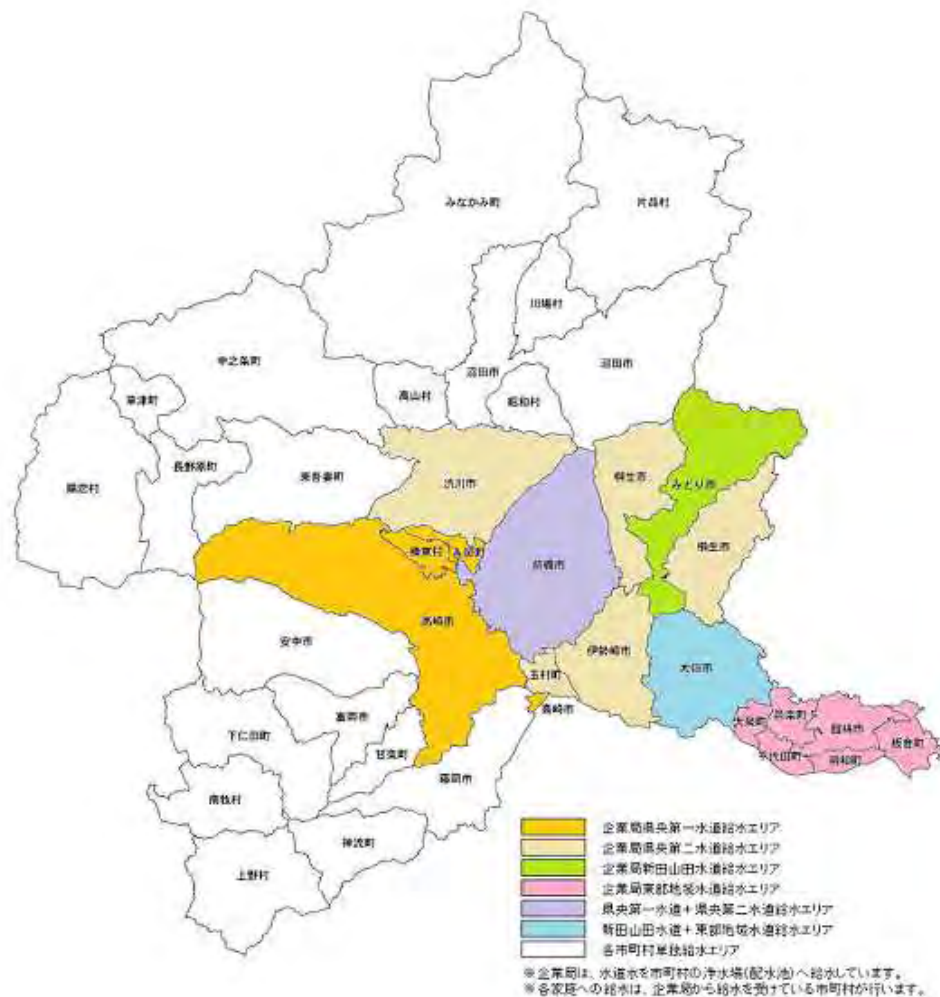
平成24年度末までは、全市町村で放射性物質検査を実施していましたが、平成25年度当初からは、1市町村が検査の必要性を検討した結果、実施を中止しています。

※浄水処理工程における放射性セシウムの挙動

水道水中の放射性セシウムについては、セシウムの化学的性質により、主に濁質成分（原水（河川水や井戸水等）に含まれる土や砂など）に付着して水中に存在していることから、水道水の浄水処理工程において、濁質成分として除去することが可能であるため、水道水中に残ることはほとんど無いと考えられます。

※群馬県内の水道水の供給状況について（下図参照）

- ・ 県内の水道水は、市町村等の水道事業者が供給しています。
- ・ 下図で色分けされた市町村には、県企業局の浄水場で処理した水道水が供給されています。（市町村は、独自の水源による水道水と併用しています。）



3 農林水産物

事故直後、県内で生産された露地物のハウレンソウ、カキナから一時的に基準を超える放射性物質が検出され出荷制限措置がとられましたが、まもなく安全が確認され解除になっています。農林水産物については、生産物の出荷段階での検査のほか、農地土壌や飼料作物のモニタリング調査、きのこ類のほだ木については生産ロットごとの検査等により生産段階を通して安全の確保が図られています。

(1) 農産物

県内で生産された農産物は、出荷前または出荷初期の段階でサンプル調査を実施して安全性を確認しています。米、麦、野菜、果実、加工品等118品目について継続的に検査しています。

原発事故直後に、ハウレンソウ、カキナ及び一部地域の茶について、出荷制限（注11）措置がとられました。その後、安全が確認され、それぞれ解除になっています。（ハウレンソウ、カキナは平成23年4月8日出荷制限解除。一部地域の茶は平成25年6月7日出荷制限解除。）

その他のものについては、食品衛生法による基準値（100ベクレル毎キログラム）を超えた品目はありません。これまでの検査結果の概要は次のとおりです。

（注11）

出荷制限(指示)と出荷自粛(要請)＝出荷制限(指示)は、基準値を超えた食品について、生産地域の広がりがあると考えられる場合に当該地域・品目を対象に出荷しないよう国が指示するものです。一方、出荷自粛(要請)は、基準値を超えた食品について、地域的な広がりが無い場合に出荷しないよう県が要請するものです。

〈農産物の検査結果〉

年度	区分	検体数	基準値超過数	超過品目
平成22年度(3月20日～31日)	野菜	41	3	ハウレンソウ・カキナ
平成23年度	穀類	161	0	
	野菜	447	0	
	果実	68	0	
	工芸作物	38	3	茶
	加工品	7	0	
平成24年度	穀類	754	0	
	野菜	710	0	
	果実	142	0	
	工芸作物	28	1	茶
	加工品	4	0	
平成25年度(4～9月)	穀類	162	0	
	野菜	292	0	
	果実	53	0	
	工芸作物	9	0	
	加工品	0	0	

(2) 畜産物

ア 生乳（注12）

県では農場から出荷された生乳について、平成23年3月22日から月ごとに県内全域が対象となるよう、県内8か所のクーラーステーション及び直接搬入される3か所の乳業工場毎週2～3検体ずつ採取し、検査を行って

います。

これまで検査した生乳は、全て基準値（50ベクレル毎キログラム）を大きく下回っています。

（注12）

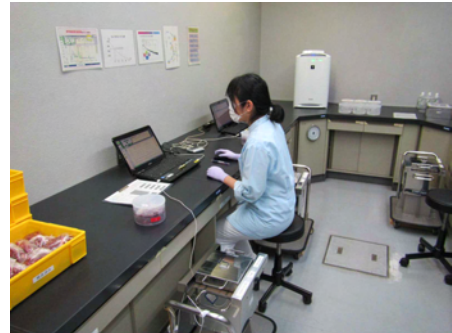
生乳＝牛から搾ったまま何も手を加えていない状態の乳のことをいいます。

〈生乳の検査結果〉

年度	検体数	基準値超過数
平成23年度	110	0
平成24年度	150	0
平成25年度（4～9月）	72	0

イ 牛肉

平成23年7月31日から県内の食肉処理場に出荷される肉牛の全頭検査を実施しています。平成24年10月に基準値(100ベクレル毎キログラム)を超過した牛が1頭確認されましたが、市場へ流通はしていません。それ以外は全て基準値を下回っています。



放射性物質検査

〈牛肉の検査結果〉

年度	検体数	基準値超過数
平成23年度	9,967	0
平成24年度	14,103	1
平成25年度（4～9月）	6,633	0

ウ 豚肉・鶏肉

豚肉と鶏肉は平成23年4月11日に検査を実施し、平成23年10月28日からは四半期ごとに検査しました。その後、平成24年度からは豚

肉は毎月1回2検体、鶏肉は四半期に1回2検体ずつ検査を実施しています。

豚肉、鶏肉ともこれまで全て基準値を下回っています。

〈豚肉・鶏肉の検査結果〉

年度	肉種	検体数	基準値超過数
平成23年度	豚肉	11	0
	鶏肉	5	0
平成24年度	豚肉	24	0
	鶏肉	8	0
平成25年度（4～9月）	豚肉	12	0
	鶏肉	4	0

(3) 水産物（養殖魚）

県では平成23年4月から平成25年7月までに、7回、県内の養魚場を対象にイワナ・ヤマメ・ニジマス・ギンヒカリ・アユ・コイの6魚種を対象に検査を実施しています。

検査結果は、全て、不検出又は基準値以下でした。

〈養殖魚の検査数〉

魚種	平成23年度	平成24年度	平成25年度 (4～7月)	検査結果
イワナ	4	21	6	不検出又は 基準値以下 (基準値： 100Bq/kg)
ヤマメ	3	18	6	
ニジマス	7	26	11	
ギンヒカリ	4	17	7	
アユ	2	5	1	
コイ	4		4	
計	24	87	35	

(4) 栽培きのこ

ア 栽培きのこのモニタリング検査

栽培きのこの食品モニタリング検査については、平成25年9月末までに491件について実施しました（表）。原木栽培（注13）の生しいたけ及び菌床栽培（注14）のきのこ類では、これまで食品の基準値を超えたものはなく、安全が確認されています。

原木栽培の乾しいたけについて、高崎市、沼田市、渋川市、富岡市、中之条町、高山村、東吾妻町、みなかみ町の8市町村において、乾燥状態での計測で旧基準値500ベクレル毎キログラムを超過したことが確認され、出荷

自粛要請（注11）となっています。なお、菌床栽培の乾しいたけについては出荷自粛要請はありません。

また、藤岡市産の原木栽培のなめこで基準値超過が確認され、出荷自粛要請となっていますが、流通のほとんどを占める菌床栽培のなめこについては安全が確認されています。

その他の栽培きのこ類は、安全が確認されています。

- (注13) 原木栽培=きのこ栽培用に切り出した木材(原木)にきのこの菌を植え付けて栽培する方法をいいます。
- (注14) 菌床栽培=オガコ等にきのこの種菌を植え付けて栽培する方法をいいます。

〈栽培きのこの食品モニタリング検査件数〉

平成23年度			平成24年度			平成25年度（4～9月）			合計
原木生 しいたけ	菌床生 しいたけ	他	原木生 しいたけ	菌床生 しいたけ	他	原木生 しいたけ	菌床生 しいたけ	他	
41	22	52	90	55	102	39	37	53	
計	115		計	247		計	129		491

イ きのこ原木等の指標値検査

栽培きのこについては、食品としてのきのこを安全に栽培するために、きのこ原木（注15）及び菌床用培地の安全基準として当面の指標値（注16）が定められています。

群馬県では、原木、菌床、おが粉等の資材

の段階で検査を行い、指標値以下の資材のみを使用することにより、安全なきのこの生産に努めています。特に原木栽培きのこについては、ほだ木（注15）の全ロット検査を実施し、安全が確認されたほだ木のみを使用しています。

平成25年9月末までに、ほだ木は2,370件の検査を行いました。そのうち、指標値である50ベクレル毎キログラム以下となったのは34%の817件でした。経過措置対象である50～100ベクレル毎キログラムのほだ木は19%の446件、100ベクレル毎キログラムを超過していたほだ木は47%の1,107件でした。

指標値を超過したほだ木は廃棄し、安全な

ほだ木への入替えを行っています。

(注15)

きのこ原木とほだ木=きのこ用に切り出した木材を「きのこ原木」といい、それにきのこ菌を植えたものを「ほだ木」といいます。

(注16)

きのこ原木及び菌床用培地の当面の指標値= 当面の指標値(きのこ原木・ほだ木)：50ベクレル毎キログラム (Bq/kg) (乾重量)

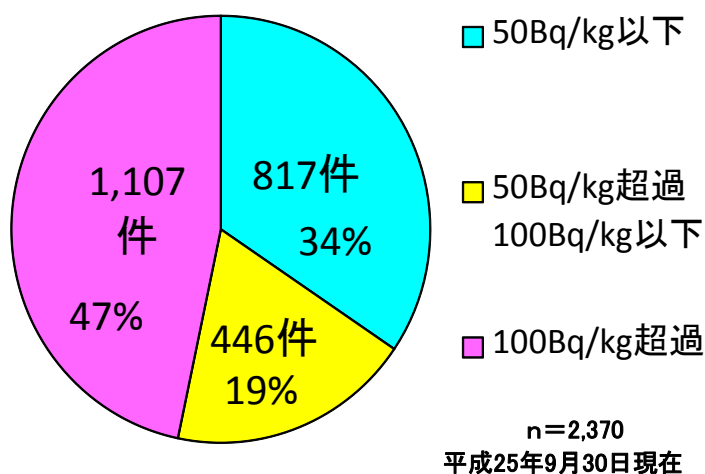


図 ほだ木における指標値確認検査結果



安全な原木、ほだ木の確保

4 野生の山菜・きのこなど

流通・販売を目的として採取された野生の山菜、きのこ類については、安全確認のための食品モニタリング検査が実施されています。

シカ、イノシシ、クマなどは、狩猟や有害鳥獣駆除を目的に捕獲されており、獣肉が流通することは基本的にはありませんが、出荷制限の対象となっていることから、きめ細かい検査を継続的に行っています。

(1) 野生の山菜・きのこ

流通、販売を目的として採取された、野生の山菜類及びきのこ類について食品モニタリング検査を実施し、安全を確認しています。万一、

基準を超える放射性物質が検出された場合は、出荷制限等の措置を講じ、流通しないようにしています。

ア 食品モニタリング検査

平成25年9月末までに、野生のきのこ類31件、野生の山菜類83件、合計114件の検査を行いました。

〈野生のきのこ・山菜類のモニタリング検査件数〉

平成23年度		平成24年度		平成25年度（4～9月）		合 計
野生きのこ	野生の山菜	野生きのこ	野生の山菜	野生きのこ	野生の山菜	
5	8	25	39	1	36	114
計	13	計	64	計	37	

イ 出荷制限等

高崎市の旧倉渕村地区で採取されたタラノメで基準値超過が確認され、県による出荷自粛要請が行われています。

渋川市産の野生タケノコ(マダケ)が平成24年度の検査で基準値を超過したため、出荷自粛要請となりましたが、平成25年度の検査で旧伊香保町、旧北橋村、旧赤城村、旧子持村で採取されたものについて安全が確認された

ので、同地区については出荷自粛要請を解除しました。なお、旧渋川市地区及び旧小野上村地区では、出荷自粛要請が継続しています。

野生きのこ類については、平成24年度の検査で沼田市、安中市、長野原町、嬭恋村、高山村、東吾妻町、みなかみ町で基準値超過が認められたため、同市町村については国から出荷制限が指示されています。

(2) 水産物（河川・湖沼）

イワナ・ワカサギなど、県内の河川湖沼で採捕される魚類の放射性物質については、事故当時と比べると、徐々に減少し、ごく限られた河川湖沼で基準値を超える放射性物質が認められるのみとなりました。

県内の河川湖沼を対象に、7魚種（アユ・イワナ・ウグイ・コイ・ヤマメ・ワカサギ・ナマ

ズ）を採捕し、平成23年度に108検体、平成24年度に207検体、平成25年10月11日までに245検体、合計560検体を実施しました。

平成25年10月11日現在では基準値超えは、ヤマメ・イワナで10検体、ワカサギで5検体ありました。

〈河川・湖沼における水産物の検査数〉

魚種	平成23年度	平成24年度	平成25年度 (4月～10月11日)	平成25年度 基準値超え
イワナ	24	46	71	赤城大沼・榛名 湖ワカサギ、沼 尾川（吾妻川支 流）・ヤマメ、 上沢渡川・イワ ナ 基準値： 100Bq/kg
ヤマメ	49	113	140	
アユ	2	25	11	
ワカサギ	25	22	22	
ウグイ	7	0	1	
コイ	1	0	0	
ナマズ	0	1	0	
計	108	207	245	

(3) 野生鳥獣

野生鳥獣については、狩猟や有害鳥獣駆除を目的に捕獲されていることから、獣肉が流通することは、基本的にはありませんが、県内における野生鳥獣肉の放射性物質については、平成23年度からツキノワグマ、イノシシ、ニホンジカ、ノウサギ、鳥類（キジ、ヤマドリ、カモ類

等)を対象に検査を行っており、ツキノワグマ、イノシシ、ニホンジカ、ヤマドリについては、県内全域で出荷制限が行われています。

放射性セシウム濃度はバラツキがあり、継続して調査を行っています。

食品等出荷制限・自粛の状況 一覧表

1 農林水産物

品目	出荷制限 ・出荷自粛	対象地域 (指示・要請年月日)	解除地域 (解除年月日)
カキナ	出荷制限	群馬県全域 (H23. 3. 21指示)	群馬県全域 (H23. 4. 8解除)
ハウレンソウ	出荷制限	群馬県全域 (H23. 3. 21指示)	群馬県全域 (H23. 4. 8解除)
茶	出荷制限	桐生市、渋川市 (H23. 6. 30指示)	桐生市 (H24. 5. 28解除) 渋川市 (H25. 6. 7解除)
乾しいたけ (原木栽培)	出荷自粛	高崎市、沼田市、渋川市、富岡市、中之条町、高山村、東吾妻町、みなかみ町 (H23. 12. 5要請)	
原木なめこ (露地栽培)	出荷自粛	藤岡市 (H24. 12. 13要請)	

2 野生の山菜・きのこなど

品目	出荷制限 ・出荷自粛	対象地域 (指示・要請年月日)	解除地域 (解除年月日)
野生タケノコ (マダケ)	出荷自粛	渋川市 (H24. 6. 25要請)	渋川市(旧渋川市及び旧小野上村を除く) (H25. 7. 22解除)
野生タラノメ	出荷自粛	高崎市(旧倉渕村) (H25. 4. 25要請)	
野生きのこ	出荷制限	沼田市、嬭恋村、東吾妻町 (H24. 9. 25指示) 高山村 (H24. 10. 10指示) 安中市 (H24. 10. 16指示) 長野原町 (H24. 10. 23指示) みなかみ町 (H24. 11. 13指示)	
フキノトウ	出荷自粛	中之条町 (H24. 4. 9要請)	中之条町 (H24. 4. 20解除)
ヤマメ (養殖を除く)	出荷制限	・吾妻川 (* 1) (H24. 4. 27指示) ・薄根川 (支流を含む。) (H24. 4. 27指示) ・小中川 (支流を含む。) (H24. 4. 27指示) ・桃ノ木川 (支流を含む。) (H24. 4. 27指示)	・薄根川 (支流を含む。) (H24. 11. 9解除) ・小中川 (支流を含む。) (H25. 4. 25解除) ・桃ノ木川 (支流を含む。) (H25. 4. 25解除)
イワナ (養殖を除く)	出荷制限	・吾妻川 (* 1) (H24. 6. 8指示) ・薄根川 (支流を含む。) (H24. 6. 8指示) ・烏川 (支流を含む。ただし、川田橋より上流に限る) (H24. 6. 8指示)	・薄根川 (支流を含む。) (H25. 6. 28解除) ・烏川 (支流を含む。ただし、川田橋より上流に限る) (H24. 11. 9解除)

* 1) 支流を含む。ただし、岩島橋から東京電力株式会社佐久発電所吾妻川取水施設までの区間に限る。

イワナ・ヤマメ	出荷自粛	・赤城大沼 (H24. 9. 1要請)	
ウグイ	出荷自粛	・赤城大沼 (H24. 9. 1要請) ・名久田川 (吾妻川から上流の本支流) (H24. 9. 1要請)	・名久田川 (吾妻川から上流の本支流) (H25. 11. 22解除)
コイ	出荷自粛	・赤城大沼 (H24. 9. 1要請)	
ワカサギ	出荷自粛	・赤城大沼 (H24. 9. 1要請) ・榛名湖 (H25. 2. 1要請)	
イノシシ (野生)	出荷制限	群馬県全域 (H24. 10. 10指示)	
クマ (野生)	出荷制限	群馬県全域 (H24. 9. 10指示)	
シカ (野生)	出荷制限	群馬県全域 (H24. 11. 14指示)	
ヤマドリ (野生)	出荷制限	群馬県全域 (H25. 1. 23指示)	

5 流通食品

県内に流通する食品の安全性を確認するため、県と前橋市及び高崎市が連携して県内の食品製造所又は販売店で採取した食品について、食品安全検査センターにて放射性物質の検査を実施しています。

流通食品の放射性物質検査は平成23年12月から実施しており、平成25年9月末までに計252検体の検査を行い、全て暫定規制値もしくは基準値以下でした。

(1) 平成23年度実施結果

収去品 (注17) 54検体、試買品 (注18) 12検体、計66検体実施し、結果は全て暫定規制値以下でした。

(注17) 収去品＝収去検査とは、食品衛生法に基づき食品の安全性確保の一環として、食品衛生監視員が食品製造施設や販売施設から食品等を検査するために無償で採取したものをいいます。

(注18) 試買品＝流通・販売されている食品を検査するために消費者の視点から買い上げたものをいいます。

＜流通食品検査結果(H23年度)＞

検査品目	検体数	放射性セシウム暫定規制値※超過件数
乳・乳製品	20	0
小麦粉製品	10	0
大豆製品	2	0
野菜・果実	11	0
清涼飲料水	2	0
農産物加工品	14	0
生鮮魚介類	5	0
食肉製品	2	0
合計	66	0

(2) 平成24年度及び平成25年4月から9月末までの実施結果

収去品156検体、試買品30検体、計186検体実施し、結果は全て基準値以下でした。

〈流通食品検査結果(H24.4.1~H25.9.30)〉

検査品目	検体数	放射性セシウム規格基準値※超過件数
乳・乳製品	33	0
小麦粉製品	23	0
大豆製品	14	0
生鮮野菜等	8	0
清涼飲料水	20	0
漬物	21	0
生鮮魚介類	12	0
酒類	2	0
鶏卵	8	0
乳児用食品	6	0
そうざい	9	0
食肉製品	11	0
その他	19	0
合計	186	0

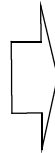
※食品の新たな基準値の設定について

放射性セシウム暫定規制値
(平成23年度適用)

食品群	規制値 (Bq/kg)
飲料水	200
牛乳・乳製品	200
野菜類	500
穀類	500
肉・卵・魚・その他	500

食品衛生法の放射性セシウム規格基準値
(平成24年4月1日から適用)

食品区分	基準値 (Bq/kg)
飲料水	10
牛乳	50
乳児用食品	50
一般食品	100



ゲルマニウム半導体検出器 (食品等の放射性物質濃度を測定します)

◆食品中の放射性物質検査の手順



6 学校給食

県教育委員会では学校給食検査設備整備事業（学校給食用食材の事前検査）及び学校給食安心対策事業（提供後の学校給食の検査）によって、平成24年度から学校給食の放射性物質検査を実施しています。

これまでの検査の中で、食品中の放射性物質検査基準値を越えた学校給食用食材及び学校給食は確認されていません。

(1) 学校給食検査設備整備事業

県内5か所の教育事務所に設置した放射性物質検査機器により、検査を希望する市町村等が給食用食材の検査を実施しています。（平成24年度は延べ1,795団体が実施）

〈平成24年度 給食用食材検査結果〉

区 分	検 出		検出下限値未満	合計
	50ベクレル以上	50ベクレル未満		
検査件数	0	7	2,223	2,230

(2) 学校給食安心対策事業（旧学校給食モニタリング事業）

調理済みの学校給食を、毎食1食分を1週間分まとめて、放射線量の精密検査を実施しています。（平成24年度は6市町村が実施）

〈平成24年度 提供給食の精密検査結果〉

実 施 期 間	対象市町村	検査結果
5月28日～9月14日 (計9週間分)	川場村 館林市	すべて検出下限値未満
9月18日～11月16日 (計9週間分)	草津町 桐生市	すべて検出下限値未満
11月19日～2月15日 (計9週間分)	渋川市 甘楽町	すべて検出下限値未満

7 廃棄物

「平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法」（以下、「放射性物質汚染対処特措法」）に基づく、特定一般廃棄物処理施設（焼却施設、最終処分場）から排出される排ガス及び排出水の放射能濃度の測定結果では、焼却施設及び最終処分場で、基準を超えた施設はありません。

また、群馬県内における指定廃棄物（放射性物質濃度が8,000ベクレル毎キログラムを超え、環境大臣が指定した廃棄物）は、1,186.7tありますが、現在、新たな発生はありません。

県内の指定廃棄物は、現在、発生施設等で安全に保管されています。保管場所の空間放射線量率も定期的に測定されており、測定値は周辺の空間放射線量率と同等となっています。

なお、指定廃棄物の処理は国の責任で行うこととされており、環境省で指定廃棄物の最終処分場設置に向けて検討が進められています。

(1) 一般廃棄物処理施設における放射性物質濃度

市町村等は、放射性物質汚染対処特措法に基づき、特定一般廃棄物処理施設（焼却施設、最終処分場）に係る放射性物質濃度の測定を実施しています。また、県でも市町村等の施設の維持管理状況の監視として、同様に測定を実施しています。これらの測定結果については、定期的に県のホームページで公表しています。

測定結果の概要は次のとおりです。

- ・焼却施設の排ガスの放射性セシウム濃度は、いずれも基準以下でした。
- ・焼却施設の焼却灰の放射性セシウム濃度

が、指定廃棄物の指定を受ける8,000ベクレル毎キログラムを超える施設はありませんでした。なお、放射性セシウム濃度は、原子力発電所事故直後と比較すると、年々減少傾向にあります。

- ・最終処分場の排出水の放射性セシウム濃度は、いずれも基準以下でした。
- ・最終処分場の周辺地下水の放射性セシウムは、いずれも不検出で、水質への影響は認められませんでした。

(2) 指定廃棄物の処理

群馬県では、浄水発生土（注19）672.8t、下水汚泥（焼却灰等含む）513.9t、合計1,186.7tの指定廃棄物が発生しました。なお、今後増加する傾向はありません。

群馬県で発生した指定廃棄物は、発生した施設等の公共施設9施設において、環境省が策定

したガイドラインによる保管基準に従って、適切に保管されています。

現在、国が最終処分場の設置について検討を行っています。

（注19）**浄水発生土**＝浄水場において、水道水をつくる過程で発生する土砂等の沈殿物を取り出したものをいいます。

(3) 災害廃棄物広域処理状況

県内での災害廃棄物広域処理は、平成25年8月までにすべて終了しました。県内に受入れた災害廃棄物は、密閉式コンテナにより被災地（岩手県宮古地区）から鉄道貨物、トラックにより県内3施設に輸送され処分されました。なお、災害廃棄物の受入れにあたっては、廃棄物放射

性物質濃度、廃棄物遮蔽線量率（注20）、廃棄物周辺放射線量率、コンテナ周辺放射線量率などの測定が実施され安全が確認されています。

（注20）**遮蔽（しゃへい）線量率**＝外部の放射線の影響を遮断させるため災害廃棄物を鉛製の遮蔽体内で、線量率を測定した値のことをいいます。

<災害廃棄物の放射性物質濃度・放射線量測定結果（搬出時）>

廃棄物放射性物質濃度 (Bq/kg)	ND (検出限界以下)
廃棄物遮蔽線量率 (μ Sv/時)	0.000~0.003
廃棄物周辺放射線量率 (μ Sv/時)	0.03 ~0.07
コンテナ周辺放射線量率 (μ Sv/時)	0.04 ~0.07
バックグラウンド放射線量率 (μ Sv/時)	0.05 ~0.07

<災害廃棄物の受入状況>

自治体名	受入期間	受入日数(日)	受入量(t)
吾妻東部衛生施設組合	H24. 6. 8~H25. 6. 7	177	739.57
桐生市	H24. 9. 27~H25. 8. 5	154	5,091
前橋市	H25. 1. 22~H25. 8. 6	106	1,753
県 計		延べ437	7,583.57



災害廃棄物の放射線量測定

○身の回りの放射線

身の回りには、もともと存在する放射線もあります。日本国内でもともと自然界から人が日常的に浴びる放射線量：年間1.5ミリシーベルト(世界平均は、年間2.4ミリシーベルト)です。

